

教室活動のデザイン

参加し考える日本語学習活動

「漢字・語彙」「メディア・リテラシー」「モニタリング」の力を育成するために

学習者は教えられた文法や語彙を覚えるだけなのでしょうか。そうではないはず。書くことやインターネット利用など言語を運用する多様な活動を通して日本語力を鍛えています。学習者が言語活動に参加し、自ら考えて日本語の力を高めるには、教室活動をどのようにデザインすればいいのでしょうか。

この研修では、以下の3つの力を育成するための教育実践を紹介します。

漢字・語彙の力を高める

メディア・リテラシー（メディアを分析、評価、活用する力）を育てる

書くという活動を通してモニタリングの力（自分の言語使用が正しいかチェックする力）

さらに、学習者自らが日本語運用の方法を発見し試行することができる参加型の活動を、研修参加者のみなさんとディスカッションをしながら考えたいと思います。

日時とスケジュール：2008 年 12 月 6 日（土） 9：45～17：30

9:45-9:55	開会
10:00-12:00	【講座1】 「知識を活性化し使えるようになるための漢字学習活動」 小林由子（北海道大学留学生センター 准教授）
12:00-13:00	昼食
13:00-15:00	【講座2】 「メディア・リテラシー育成を通じた日本語学習活動」 岡本能里子（東京国際大学 国際関係学部 教授）
15:00-15:15	休憩
15:15-17:15	【講座3】 「モニタリングを活性化させるための作文課題と教室活動」 衣川隆生（名古屋大学留学生センター 准教授）
17:15-17:30	閉会

会場：(財)言語文化研究所附属東京日本語学校（ナガヌマスクール）

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 16 号 26 番 [JR 渋谷駅南口から徒歩約 10 分](#)

対象者：成人を対象とする日本語教育機関で現在日本語教育に携わっておられる方

（過去に経験を有する方も可）

定員：各講座 40 名程度 1 講座だけの参加も可



社団法人日本語教育学会 2008 年度日本語教師研修コース

受講料：会員 各講座 2,000 円 3 講座通し参加 5,000 円
 一般 各講座 2,500 円 3 講座通し参加 7,000 円
 学生 各講座 1,500 円 3 講座通し参加 4,000 円 学生証を提示すること

応募書類受領後に振込先口座番号等をお知らせします。一旦納入された受講料の返金には応じかねます。

申込：

締め切り：11月20日(木) ただし、定員になり次第、締め切り日以前でも募集を終了します。

方法：以下の書類をダウンロードして記入し、郵便、FAX、メールのいずれかの方法で下記までお送りください。

[参加申込書と事前課題ダウンロード \(MS ワード\)](#)

[参加申込書と事前課題ダウンロード \(PDF\)](#)

送付先：(社)日本語教育学会 教師研修委員会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2 F

TEL：03-3262-4291 FAX：03-5216-7552 E-mail：kyoshikenshu@nkg.or.jp

メールでの応募はタイトルを「研修応募(教室活動)」としてください。

応募書類は返却いたしません。

この募集に関して集めた個人情報は、本研修の実施以外の目的には使用いたしません。

各講座の内容と事前課題

全ての講座に事前課題があります。

講座1と講座2の課題は、「参加申込書」と同時にお送りください。講座3の課題は、当日お持ちください。

【講座1】 知識を活性化し使えるようになるための漢字学習活動 講師：小林由子

目 標	漢字を学んだことがある学習者を対象に、何に着目して漢字学習活動をデザインするかを学習科学の観点から考えます。学習者の目的や既に持っているものを生かしながら漢字を実際に使えるようにするために、必要な事項の理解を深め実践を共有することが目標です。
内 容	事前課題にもとづき、漢字を教える際の問題を共有する 講義「学習科学の観点から漢字学習シラバス・学習活動をどう捉えるか」 漢字学習においてどのような学習活動が可能か、グループワークを通じて考える グループワークの結果を共有し、どのような実践が可能かを検討する

【講座2】 メディア・リテラシー育成を通じた日本語学習活動 講師：岡本能里子

目 標	コミュニケーション能力をメディア・リテラシーの観点から捉えなおし、メディアを読み解き、活用し、発信することを通して、教室を越えた「学習者主体」の「社会実践」としての日本語教育の可能性とその実践方法を共に考えます。
内 容	事前課題をもとに私達とメディアとの関係について話し合う ビデオを視聴し、メディア・リテラシーの観点を考える 講義「コミュニケーション能力とメディア・リテラシー」 どのような実践が可能かをグループで話し合い紹介する



【講座3】 モニタリングを活性化させるための作文課題と教室活動 講師：衣川隆生

目 標	作文過程を「書き手が伝えたいメッセージを読み手と共有していくための課題解決過程」として捉え、その課題遂行能力の育成を目的とした教育実践方法を考えます。活動体験を通して、評価基準の確立とモニタリングの重要性について理解し、応用方法を検討します。
内 容	活動事例の体験(事前課題を利用した授業体験)について話し合う 振り返り(体験から学んだことの共有化)を行なう 講義「文章を書くことは何を創造するのか」 応用方法の検討(作文技能から産出技能へ)を行なう